

<ウイークエンド・セミナー>



インドの経済成長と市場動向

～ 大国への道を歩む静かなる聖流 ～



(ガンジス川)

平成21年9月18日
株式会社SBI証券
投資調査部

1. アジアの成長大国(概略)

【国名】インド(India)

【首都】ニューデリー(New Delhi)

【人口】約11.6億人(ヒンドゥー教徒8割、イスラム教徒他)

【言語】連邦公用語ヒンディー語、公認語21種類、英語

【面積】約329万平方キロメートル(日本の約9倍)

【GDP】1兆2,097億米ドル(2008年/IMF)

【1人当たりGDP】1,016ドル(2008年/IMF調査=日本の1人当たりGDPの約3%)

【政治】共和制、二院議会制(上院245議席、下院545議席)

【指導者】プラティバ・パティル大統領

マンモハン・シン首相(第二次連立政権)

【通貨】ルピー(1ルピー:1.90円/9月16日現在)

【主要産業と輸出】

農業、工業、鉱業、情報通信産業

<輸出品> 石油製品(16%)、宝飾品(12%)、繊維(6%)、

<輸出先> 米国(13%)、UAE(10%)、中国(7%)、シンガポール(4%)、英国(4%)

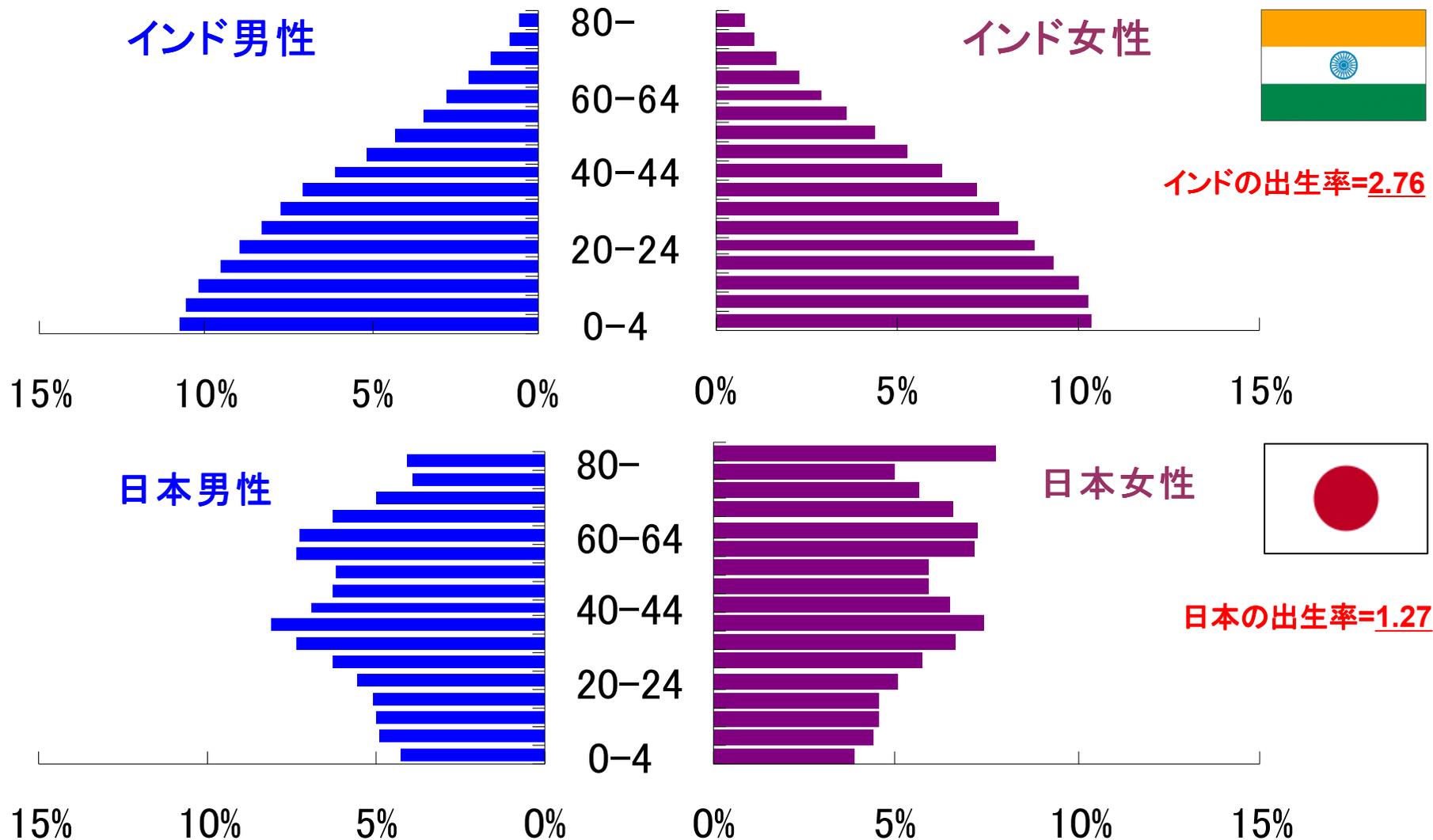


マンモハン・シン首相

(出所)JAICA、外務省資料、IMF

2. 人口動態(「Demography」)

インドの人口動態は「世界で最も美しい」と言われています



(*)出生率は国際連合「人口推計2008年度版」の合計特殊出生率予想

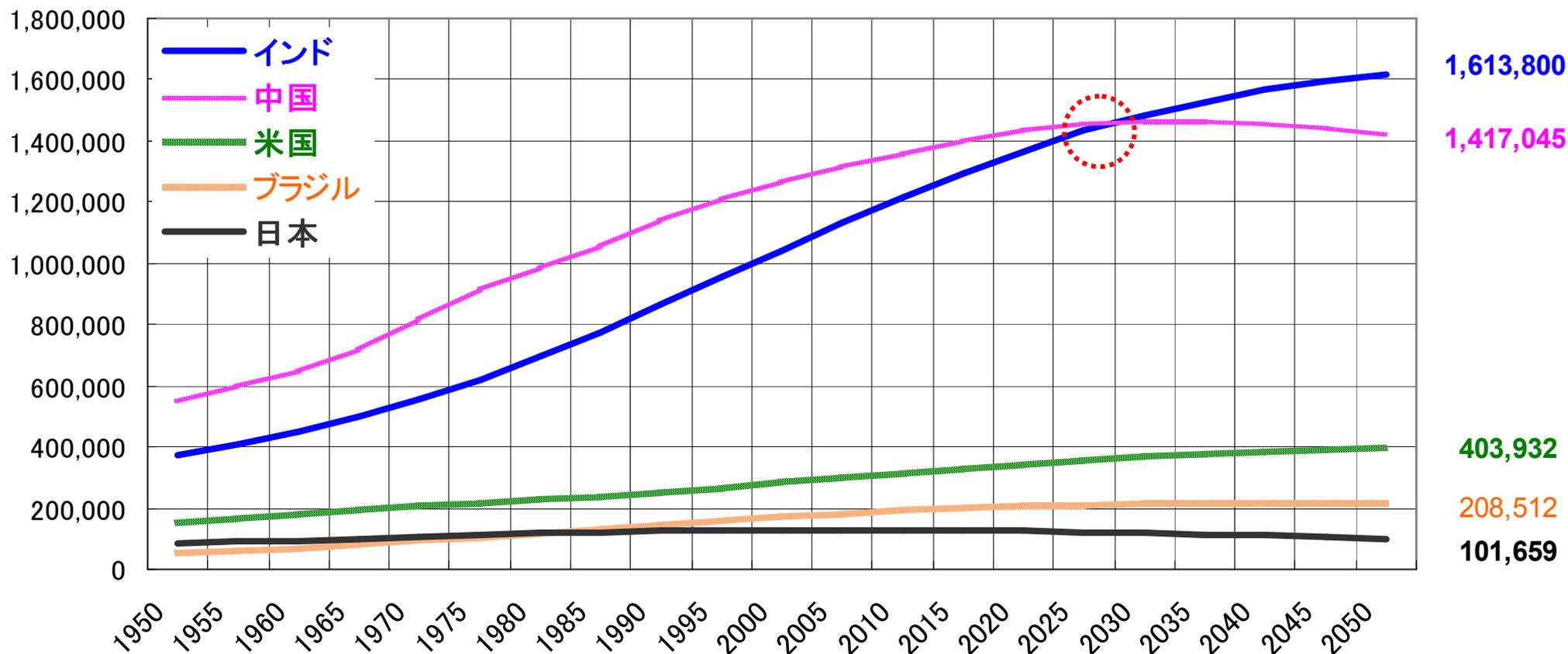
(出所)U.S. Census Bureau、国際連合

3. 人口成長予想 (Population)

2030年前後にインドの人口は中国を抜き「世界一」となる見通し

主要国の人口推移と長期予想 (国連人口基金: UNFPA)

(千人)

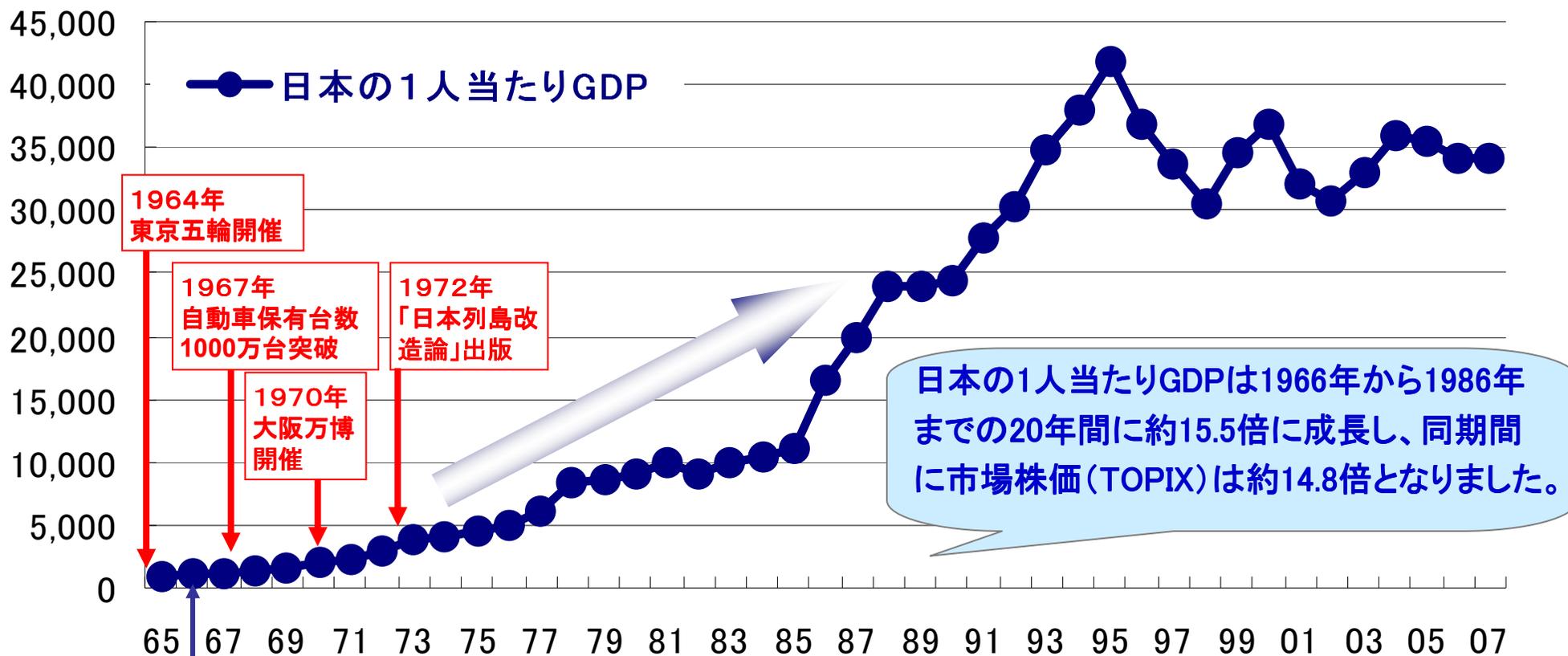


国連人口基金は『世界人口白書2008』で「インドの人口は2050年に16億人台に達し、中国の14億人台を上回り『世界一人口の多い国』となる」と予想。人口成長の原動力としてインドの出生率(国連予想)は2.76と高く、中国の1.77、そして日本の1.27をはるかに上回っています。

4. 一人当たりGDP－日本の成長軌道との比較

インドの水準は日本の「高度成長」前夜とほぼ同じ位置

日本の1人当たりGDP推移(世界銀行:US\$)



インドの1人当たりGDPは現在1016ドル(08年)で、日本の実績では1966年当時に相当します。その後の日本の発展に倣い、インド経済も高成長軌道を辿って行くことが期待されています。

(出所)世界銀行、Bloomberg

5. 世界有数の「GDP大国」へ飛躍

増加し続ける人口と一人当たりGDPが「高成長」の源泉

2008年のGDP (*1) (名目額/百万米ドル)		
1	米国	14,264,600
2	日本	4,923,761
3	中国	4,401,614
4	ドイツ	3,667,513
5	フランス	2,865,737
6	英国	2,674,085
7	イタリア	2,313,893
8	ロシア	1,676,586
9	スペイン	1,611,767
10	ブラジル	1,572,839
11	カナダ	1,510,957
12	インド	1,209,686

2025年のGDP予想 (*2) (名目額/百万米ドル)		
1	米国	20,140,000
2	中国	18,610,000
3	日本	5,220,000
4	インド	4,960,000
5	ドイツ	4,800,000
6	ロシア	4,620,000
7	英国	3,940,000
8	フランス	3,530,000
9	ブラジル	3,220,000
10	イタリア	3,120,000
11	メキシコ	2,670,000
12	韓国	2,370,000

2050年のGDP予想 (*3) (名目額/百万米ドル)		
1	中国	70,710,000
2	米国	38,520,000
3	インド	38,227,000
4	ブラジル	11,366,000
5	メキシコ	9,343,000
6	ロシア	8,564,000
7	インドネシア	7,010,000
8	日本	6,675,000
9	英国	5,178,000
10	ドイツ	5,028,000
11	ナイジェリア	4,640,000
12	フランス	4,592,000

(* 1) IMF「World Economic Outlook (April 2009)」、(* 2) Goldman Sachs公開調査資料(07年3月)にもとづく

(出所)IMF、Goldman Sachsによる公開調査資料

6. 「成長証券」である株式の高リターン期待

株価水準は国富の成長に伴って上昇する可能性が高い

主要市場の「株式時価総額/GDPレシオ」

→ 主要市場の長期GDP成長予想

	国名	名目GDP(A) (百万ドル/2008)	時価総額(B) (百万ドル)	レシオ (B)/(A)
1	米国	14,264,600	12,727,762	0.89
2	日本	4,923,761	3,587,552	0.73
3	中国	4,401,614	3,141,523	0.71
4	英国	2,674,085	2,827,458	1.06
5	ブラジル	1,572,839	1,102,290	0.70
6	インド	1,209,686	1,133,673	0.94

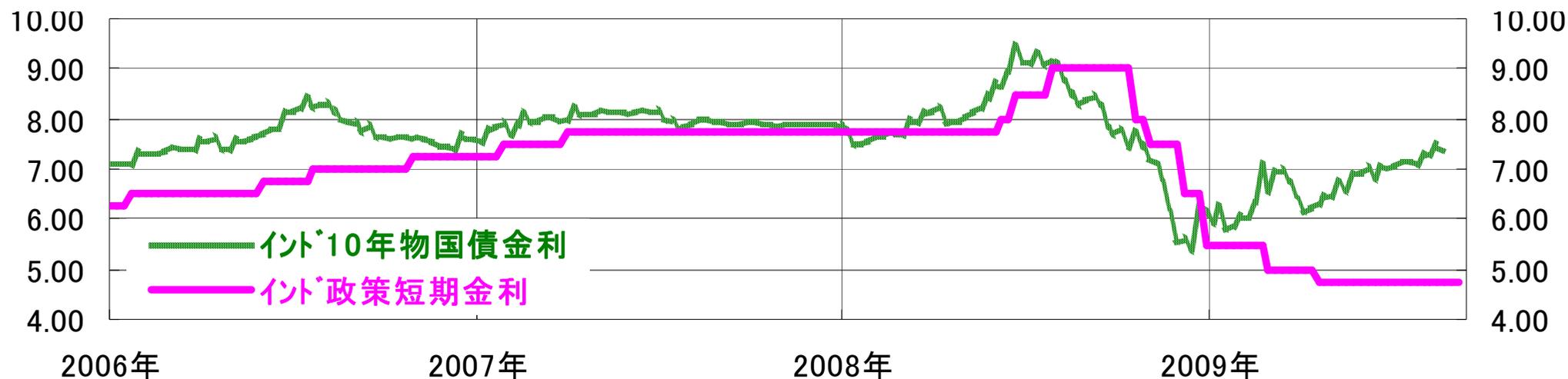
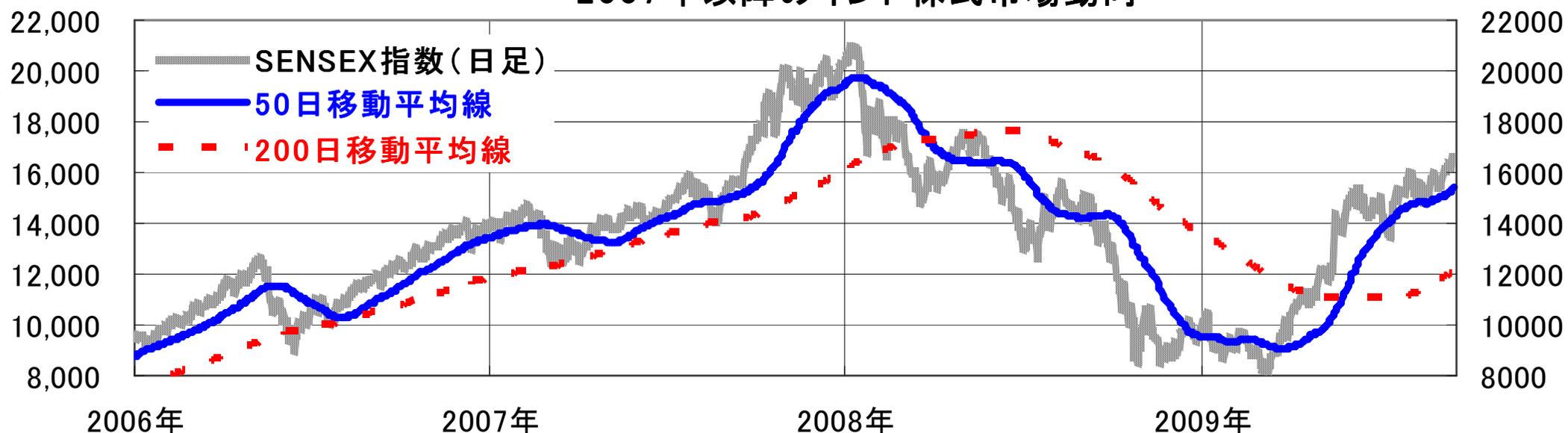
	国名	名目GDP予想 (百万ドル/2050)	成長予想 (倍)
1	米国	38,520,000	2.70
2	日本	6,675,000	1.36
3	中国	70,710,000	16.06
4	英国	5,178,000	1.94
5	ブラジル	11,366,000	7.23
6	インド	38,227,000	31.60

(出所)GDP予想はGoldman Sachsの公開調査資料、株式時価総額はBloombergのデータにもとづく

7. 最近のインド株式市場動向

世界的な景気後退不安から脱却しつつある株式市場

2007年以降のインド株式市場動向



(出所)Bloomberg

8. 世界とインドの経済成長見通し

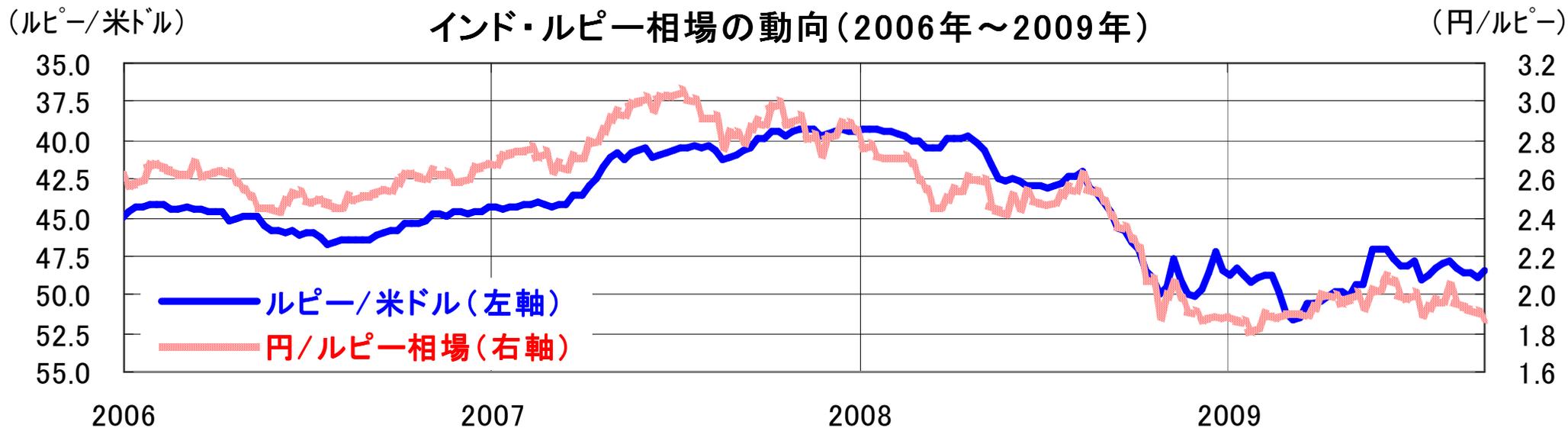
世界経済の持ち直し観測はインド景気にも好材料

実質GDP成長率 (前年比: %)	2007 (実績)	2008 (実績)	2009 (予想)	2010 (予想)	2011 (予想)
OECD (先進国)	2.5	0.6	-4.2	1.2	2.3
米国	2.0	1.1	-3.0	1.8	2.5
日本	2.3	-0.7	-6.8	1.0	2.0
ユーロ圏	2.7	0.6	-4.5	0.5	1.9
新興国	8.1	5.9	1.2	4.4	5.7
中国	13.0	9.0	6.5	7.5	8.5
ブラジル	5.7	5.1	-1.1	2.5	4.1
ロシア	8.1	5.6	-7.5	2.5	3.0
インド	9.0	6.1	5.1	8.0	8.5
世界経済平均	3.8	1.9	-2.9	2.0	3.2

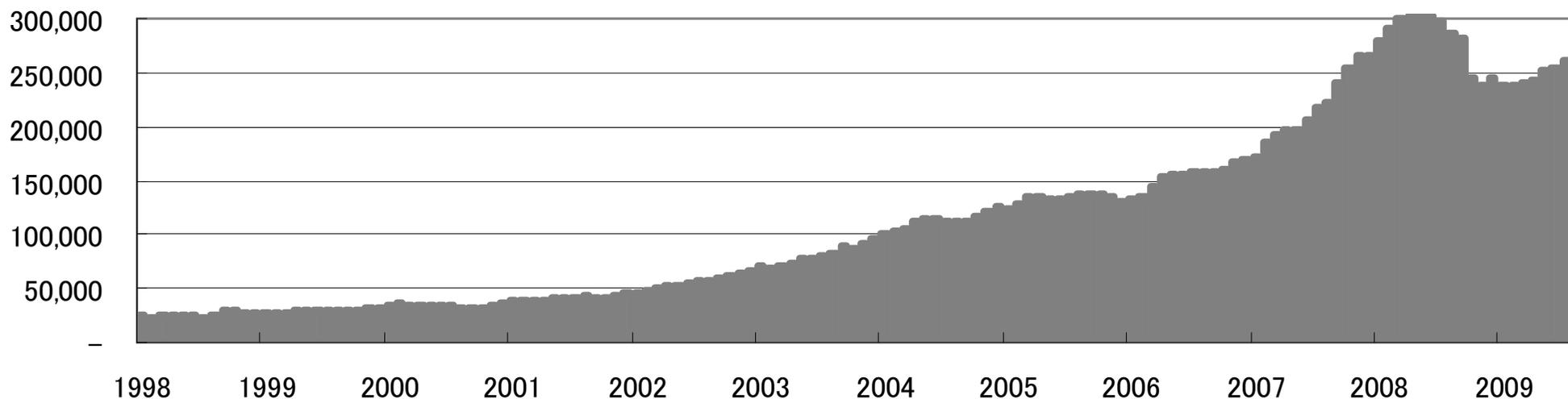
(出所)世界銀行(2009年7月予想)

9. 為替市場の動向と外貨準備高推移

昨年来のルピー売リー巡で、このところは安定した推移に



インドの外貨準備高推移(百万ドル)



(データ出所)Bloomberg

長期的な成長期待を支える要因整理

1. 人口動態のトレンドと1人当たりGDPの成長ポテンシャル
2. 豊富な若年労働力(25歳未満が人口の5割以上を占める)
3. 良質な人的資源(英語に精通した技術者が毎年約38万人卒業)
4. 今後10年で中間所得層は米国の総人口数を凌ぐと予想される
5. GDPの約68%が内需(最終消費支出)で外需依存度は低い
6. 潜在的な購買力(自動車普及率0.6% vs. 米国48%、日本43%)
7. 第11次5ヵ年計画で年平均GDP比7.6%のインフラ投資を予定
8. アジア最古の取引所(1875年設立)と上場企業多数(7000社超)
9. 伝統ある資本主義でディスクロージャーやガバナンスに高評価
10. 04年にムーディーズ、07年にS&Pから「投資適格級」格付け付与

11. インド経済・市場のリスク要因

インドのマクロ動向 (予想は世界銀行、IMF見通し)	2002年 (実)	2003年 (実)	2004年 (実)	2005年 (実)	2006年 (実)	2007年 (実)	2008年 (実)	2009年 (予)	2010年 (予)
実質GDP成長率(前年比:%)	4.6	7.3	7.3	9.2	10.0	9.3	6.1	5.1	8.0
消費者物価指数(前年比:%)	4.5	3.6	4.0	4.0	6.3	6.4	8.3	6.3	4.0
経常収支÷GDP(%)	1.6	1.6	0.1	-1.3	-1.1	-1.0	-2.8	-2.5	-2.6
金利-中央銀行レート(%)	5.50	4.50	4.75	5.25	6.00	6.00	5.00	3.25	-
金利-国債利回り 10年(%)	6.12	5.16	6.60	7.11	7.61	7.82	5.00	7.28	-
為替相場-ルピー/米ドル相場	47.97	45.63	43.46	45.05	44.27	39.41	48.8	47.25	45.28

(注) GDP成長率は世界銀行予想、消費者物価指数や経常収支(÷GDP)はIMF予想、金利や為替相場はBloombergが集計平均した市場予想の平均

<インド市場のリスク要因>

1. グローバル経済の回復が頓挫し、金融不安が最台頭するリスク。
2. 経常収支の赤字拡大が加速し、ルピー相場に圧力がかかるリスク。
3. カースト制で所得配分の不均衡が続き、成長の足かせとなるリスク。

(注) 上記はSBI証券で相対的に大きいと考えたリスク要因を例示したものです。
他のリスク要因が顕在化し、インドの経済や市場に悪影響を与える可能性もあります。

【本資料の免責事項・注意事項】

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。

過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。

万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。

本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客様向け資料をよくお読みください。

SBI証券

商号等:株式会社SBI証券(金融商品取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会